



15才の「ひとりだち」に責任をもつ

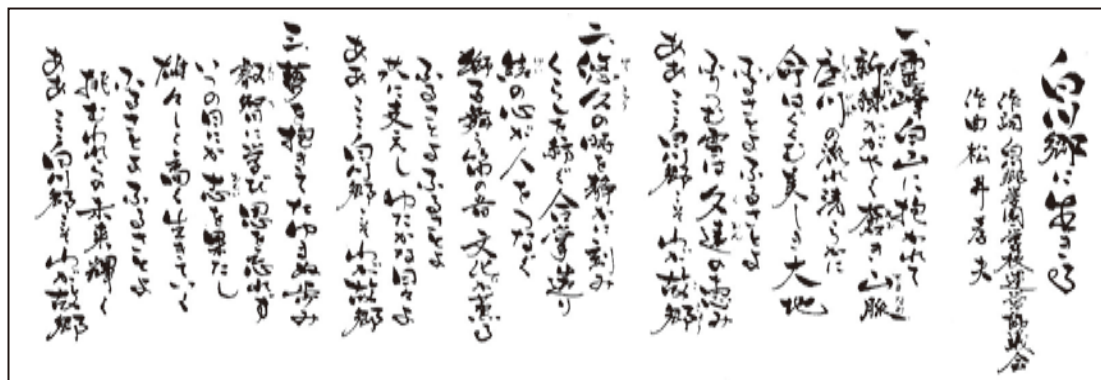
白川村立白川郷学園

「夢」「ひとりだち」応援

義務教育学校 (H29~) コミュニティ・スクール (H25~)



「ひとりだち」の書（内閣府辞令専門官 茂住菁邨氏）の前で



〒501-5629 岐阜県大野郡白川村鳩谷614番地の1
TEL (05769) 6-1366 FAX (05769) 6-1903
E-mail:shirakawago-gakuen@shirakawa-go.org
<https://www.shirakawa-go.org/school/>



1

誰もが9年先の自分を描き、 9年前を振り返ることができる学校

■生活

- 自ら考えてルールを守ることを重視する指導
- 互いの認め合いを生み出す場の設定

■健康

- 自分の命と健康を自分で守る取組
- 仲間と運動する喜びを実感する取組

◆特別支援教育の充実

- その子のよさを引き出し、自信にする指導の充実
- 支え合いを通して、全ての人を大切に
する心情を育てる指導の充実

学園の

ひと

前期課程

すすんで 自己を見つめ

なかよく 相手を理解し

みんなのために 仲間のために

■育成をめざす資質・能力

自己をみつめ、よく

白川保育園

「ひとりだちの基盤を
養う」

- 生活する力
自分のことは自分で取り組み、生活する力
- 関わる力
様々な人と交流できる人と関わる力
- 学びの力
思いきり活動に取り組む学びの力



白川郷

課程	前期課程 (小学校学習指導要領を準用)			
	低ブロック			
ブロック				
学年	1年生	2年生	3年生	4年生
	入学式			
教科授業	配置可能な教科で教科担任制		教科担任制を	
英語授業	年間 35 h		年間 70 h	
村民学	豊かな自然 > 自然をつなぐ > 自然と共に生きる >			合掌造り
全校	結クラス…1～9年生縦割り6班での活動(結クラス week、 <input type="checkbox"/> 学園集会(児童生徒会主催)…1～9年生が一同に会して児童生 <input type="checkbox"/> 学園リーダープロジェクト…各学級が役割を担って全校のために活動を行う			
ブロックごと	<input type="checkbox"/> 低ブロック集会 <input type="checkbox"/> 保育園交流 <input type="checkbox"/> 高齢者とのふれあい活動			
教職員	*低ブロック会			

白川郷学園では、「ひとりだち」に向けて育成をめざす資質・能力を「自己をみつめ、よく考え、主体的に行動する力」とし、実践を重ねています。1～4年生を低ブロック、5～6年生を中ブロック、7～9年生を高ブロックに分け、ブロックごとの職員を中心に、「チーム白川郷学園」の指導体制の下、学校運営をしています。



教育目標

ひとりだち

後期課程

努力する子

自立

助け合う子

共生

自分を生かす子

貢献

考え、主体的に行動する力

■学習

- できる・わかる・楽しいを実感する授業
- 自分の状況を知り、自ら鍛える学習の確立

■特別活動

- 仲間のために自分のよさを発揮する取組
- 課題解決に直結する創造的な取組

◆人権教育の充実

- 自他の人権を守るため考え、行動できる児童生徒の育成

学園

後期課程

(中学校学習指導要領を準用)

中ブロック

5年生

6年生

修学旅行

高ブロック

7年生

8年生

9年生

制服着用
部活動入部
宿泊研修

宿泊研修

修学旅行
卒業式

ゆるやかに拡大

完全教科担任制、教科センター方式

年間 140h

伝統行事・芸能 > 白川村魅力発信 > 白川村の担い手 > 担い手としての挑戦 > どう生きるか

結クラス遊び、結クラス給食、結クラス献立、結みがき、結トーク等)

徒会の取組を考える

学園行事 (1年生を迎える会、部活動壮行会、体育大会、9年生ありがとうの会)

中ブロック集会

部活動体験

高ブロック集会

進路説明会、進路選択、進路実現

*中ブロック会

*高ブロック会

15歳のひとりだち

- なりたい自分実現
 - ・進路選択、進路実現
- 自分の成長の実感
 - ・9年間の確かな足跡をもとに自信と誇りに結ぶ
- ふるさと白川村に誇りをもって生きる
 - ・ふるさと白川村を心の拠り所として、グローバルな視野で活躍できる





2

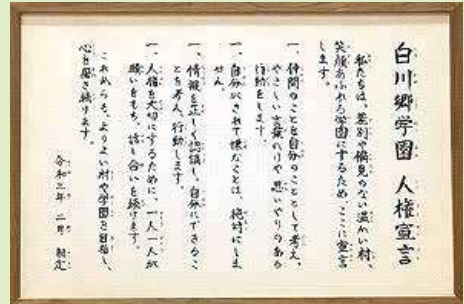
【令和5・6年度 文部科学省人権教育研究推進指定】

全教育活動を通じて、自他の人権を守るために考え、行動できる資質・能力を育てます

白川郷学園は、令和5・6年度 文部科学省人権教育研究推進校として、「自他の人権を守るために考え、行動できる児童生徒」を育成するために、様々な取組を行います。
令和6年11月28日（木）の公表会では本校の研究実践の一端を公開します。

「白川郷学園人権宣言」を窓に、自分の行動を振り返ります

令和3年2月に児童生徒会が中心となって制定した「白川郷学園人権宣言」を学園の宝物として、毎日朝の会で朗唱するとともに、帰りの会で自分や仲間の行動を見つめる場を設けています。行動を支える見方や考え方、感じ方を言葉にして振り返ることで、仲間と価値観を共有し、自分や仲間のよさを認め合える人間関係の形成を図り、安心して過ごせるようにしています。



「なりたい自分」を互いに知って「よいこと見つけ」をしています

「なりたい自分」と「よさ見つけ」を通して、自己についての肯定的な態度や、自他の価値を尊重しようとする人権感覚を育てています。年度のはじめに一人ひとりが設定する「なりたい自分」を理解し合い、その「なりたい自分」に向かう行動や行いのよさに目を向け合うことによって、価値志向的な人権感覚や内面的資質である道徳性を養っています。



「人権教育」の視点で毎日の授業を充実させています

授業の中で、互いの考えの違いに気づき、そのよさを認め合ったり、確かな根拠に基づいて結論を導き出したりできるようにするなど、主に技能的側面を意識した指導を行っています。様々な場面や状況の中で繰り返し考え、行動することで、人権感覚を育成しています。



日本国外からの来訪者との交流を積極的に行っています

白川郷には日本国外からの観光客はじめ、多くの来訪者があります。また、学園には日本国外からの視察もあります。そのような機会を捉え、日本国外からの来訪者との関わりを積極的にもち、相手の国の文化や特徴を知ろうとする活動を通して、「違いは豊かさ」と受け止められる人権感覚を養っています。また、「結クラス遠足」や「ジュニア観光大使（村民学）」としての交流を通して、「ヘイトスピーチ」に象徴される他国の言語、宗教、習慣等への理解不足からくる外国人に対する偏見や差別についての話し合い活動も行っています。



「結クラストーク」を通して、異学年で人権について考えます

異年齢集団の結クラスには、歴然とした年齢による発達の差があり、子どもたちはその差も含めてお互いを大切にしながら、一つのクラスとして生活しています。異年齢での対話を意図的に取り入れ、多面的な見方や考え方に触れることで、自己を見つめ、「違いは豊かさ」と受け止められる人権感覚を養っています。



本年度は結団式を前にした7月に、例年、体育大会で行う選抜リレーの選手選抜の在り方について「各学級、団ごとに男女各1名ずつ選出か」、「各学級、団ごとに男女関係なく2名ずつ選出か」を議論しました。自分ではなく走る仲間や選ばれる仲間の気持ちも考えながら交流し、その話し合いをもとに、9年生が最終的に学級で結論を出すに至りました。

個別の人権課題「ハンセン病問題」について学びます

本校の実態として、感染症に関する人権課題についての知的理解が十分ではないという課題が浮き彫りになりました。正しい知識をもつからこそ、正しい情報に基づく冷静な判断につながります。保健学習「感染症の予防」及び健康教育「性に関する指導」、社会科公民の学習において、正しくない知識や思い込みによって感染症患者に対する偏見や差別意識が生じ、様々な人権課題が生じていることを学びます。本年度は特に、ハンセン病回復者・元患者の支援をしてみえる方をゲストティーチャーに招き、偏見や差別が生み出された背景や現状について学びます。



3

【飛騨教育事務所研修校指定（平成30年度～）】

自ら学び、自ら考える、子ども一人ひとりが主語になる楽しい授業で力をつけます

白川郷学園では、義務教育学校ならではの教育課程の編成、教員配置や教育環境などを強みに、子どもたち一人ひとりが学びの主体者として楽しく学んでいます。願いの実現や課題の解決に向かって挑戦し、粘り強く取り組むことを継続することで、未来社会を切り拓く基礎となる学力を身に付けています。

前期、後期課程同一の週時程を運用し、落ち着いた中で学習をしています

前期、後期課程間で教職員の移動ができることから教科担任制の実現を可能にしたり、全校が落ち着いた環境下で学習ができるようにしたりする利点を生かすため、校内の時間割（ダイヤ）を統一しています。

前期課程では45分授業を基本とし、その後5分間を復習や仲間や先生に質問する時間とするなど、柔軟に活用しています。

	月・火・木・金	水
朝の会	8:00~8:10	8:00~8:10
1時間目	8:15~9:05	8:15~9:05
2時間目	9:15~10:05	9:15~10:05
休憩タイム	10:05~10:20	10:05~10:20
3時間目	10:25~11:15	10:25~11:15
4時間目	11:25~12:15	11:25~12:15
給食	12:15~13:00	12:15~13:00
昼休み	13:00~13:20	13:00~13:20
掃除	13:25~13:40	
5時間目	13:50~14:40	13:25~14:15
6時間目	14:50~15:40	14:25~15:15
みがき	15:45~16:00	
帰りの会	16:05~16:15	15:15~15:25
夜遅延	16:20	15:30

前期課程からゆるやかに「教科担任制」を進めています

それぞれの教員の教科専門性を生かした指導によって、各教科における深い学びを生み出すために、教科担任制を推進しています。

低ブロック（小学校1～4年生）では、配置可能な教科で実施し、学年が上がるごとに緩やかに拡大し、後期課程では教科担任制を完全実施しています。



教科の空気が漂う空間で授業をしています

主に後期課程では、全教科教室ではなく、各教科の教室にて授業を行っています。教科特有の備品（学習用具）や学び方、学習の足跡等の掲示物により、教科の空気を感じながら学びを深めています。



ICT 機器を活用しながら授業をアップデートしています

校内Wi-fi環境下で一人一台タブレット端末を活用した授業改善を進めています。全教科で導入しているデジタル教科書や教員が独自に作成した教材を各教室備え付けのプロジェクターで黒板に投影して授業を進めたり、学習支援ソフト（ドリルアプリ）を使った基礎的・基本的な内容の定着、授業支援ソフトを使った協働的な学びを行ったりと、授業改善を加速させています。



「みがき」の時間で自分の課題を克服しています

学力向上に向けて、児童生徒一人ひとりが自己を見つめ、自分の苦手を克服するために、毎日帰りの会前の15分間、自分の計画に従って学習に取り組めます。毎週金曜日に行っている小テストの結果から、子どもたちは翌週の学習計画を立てて取り組めます。



1年生から触れ、親しむ英語学習を行っています

白川郷学園では、特別の教育課程を編成し、1、2年生では「触れる、楽しむ」英語授業を年間35時間、3、4年生では「慣れる、親しむ」英語授業を年間35時間（5、6年生で年間70時間、7～9年生では年間140時間）実施しています。

このことは、白川村の魅力を世界に発信したり、国外からの来訪者と主体的にコミュニケーションを図ったりすることができるグローバル人材の育成にも寄与しています。



スピーチコンテスト、英語検定等の各種検定に積極的に参加しています

自分の力に合わせて、希望する児童生徒が年2回の英語検定にチャレンジしています。また、令和6年度は、飛騨地区のスピーチコンテストに3名の生徒が出場しました。





4

9年間を見通し、様々な集団での活動を通して 自他のよさや可能性を発揮することができる 特別活動

白川郷学園では、学年・学級集団だけでなく、1～9年生縦割りの集団「結クラス」での活動も意図的、計画的に位置付けています。一人ひとりが「参加」、「協力」、「貢献」する過程で合意形成を図ったり、意思決定したりする力を育み、「ひとりだち」を支えます。

異学年交流「結クラス」による活動 「結クラスウイーク」を年間4回実施 しています

年間4回、1～9年生の縦割り班「結クラス」で授業を除く1日の活動を1週間共に行います。9年前の自分や9年先の自分を見る中で、下学年の児童生徒は上級生の姿にあこがれをもち、上学年の児童生徒は頼られることで自己有用感を高めています。

結クラス遊び

業間（青空タイム）、昼休みの遊びを自分たちで考え、9学年がそろって楽しめます。

結クラス給食

ランチルームで給食の時間を過ごします。楽しくコミュニケーションを取りながら、好き嫌いなくおいしくいただきます。

結クラス献立

結クラスごとに、アレルギーや栄養バランス、白川村ならではの食材を考慮し、楽しくいただけるメニューを自分たちで考えます。

結みがき

学習の苦手を克服する「みがき」の時間を結クラスで取り組みます。学年が上の生徒が分かるまで関わります。

結クラストーク

全校でテーマを決め、結クラスごとに意見交換を通して考えます。テーマは9年生が中心となって学校生活に関する事、自分たちが興味をもっていることから設定します。



「リーダープロジェクト (LP)」による 児童生徒会活動を通して、学園の日常 活動を行います

本学園には委員会はありません。その役割を各学年が担い、自分たちで全校のためにできることを考えて活動しています。この活動を通じて、学級の仲間と学園がめざす方向を話し合い、全校の仲間への働きかけや常時活動を行っています。

生徒会執行部

各学級の代表 (LP長) が月 1 回程度集まり、活動の状況を報告したり、学園全体の課題を共有したりして学園の生活を高めます。

LP長会

全校の児童生徒にあるよさや頑張りを集会や放送で紹介したり、学園の問題点をLP長会で投げかけたりして、学園の生活を高めます。



LP活動により、子どもたちが生み出した活動

わくわくコンサート

(10、12月・4年生コーラスリーダー)

4年生が全校の児童生徒の音楽への関心を高めようと、歌、ダンス、音楽遊びのイベントを企画し、昼休みに開催します。



掃除交流会

(4月・6年生環境リーダー)

6年生が掃除の時間、入学したばかりの1年生に寄り添い、美しく掃除する方法を教えます。



結クラス遠足

(7年生健康リーダー・5月)

7年生が中心となって企画し、1年生から9年生までが楽しめるレクも取り入れながら荻町へ出かけます。





5

本物に触れ、生き方を見つめ 夢をはぐくむ感動体験

白川郷学園では、開校以来子どもたちの夢を育む感動体験を行っています。本校には村内外を問わず、学校教育に参画し、子どもの教育に協力してくださる方がたくさんみえます。その方々の豊かな専門性を発揮いただき、子どもたちが本物に触れ、生き方を見つめることができる感動体験を実施しています。

トヨタ白川郷自然学校と連携して、「サバイバル学習」を 3～8年生で実施しています

「村民学」の一つである「未来とくらし（防災学習）」として生き抜く知恵と技をトヨタ白川郷自然学校の専門講師から体験を通して学びます。もしもの時に生き抜くためのスキルアップ学習として3年生～8年生までで進めています。



花柳 琴臣氏による「和心の授業」を 学年別に全校で実施しています

日本で大切にされてきた礼節をはじめとする和の心を、琴臣氏から学びます。日本人として知っておきたいこと、大切にしたい心について、体験を通じて学びます。



金沢大学教授による「白山火山学習」 を7年生で実施しています

本村にある霊峰白山と共存していくため、金沢大学から講師を招いて噴火、岩石破壊のモデル実験や立体模型を使った白山噴火による被害について年2回（2回目はフィールドワーク）を行います。



白川村ジュニア観光大使の活動を6年 生で実施しています

6年生が「村民学」の時間に学んだことや考えた白川村の魅力や、村内を訪れた他地区の児童生徒に対して伝え、村の案内をします。6月には岐阜小学校6年生の仲間の修学旅行の案内をします。



6

【特別の教科 村民学】

ふるさを見つめ、自分自身を見つめ、
将来の担い手となる土台を学ぶ「村民学」



特別の教科

村民学

3つの分野で「本物に触れる体験」を通じて学びを進めます。自ら課題を発見し、自己の発想や工夫で仲間と共に課題解決に向けて挑戦する心や資質・能力を身に付けます。

ふるさと学習

各学年に2名ずつの地域コーディネーターが配置されており、村民憲章をもとに白川村の過去・現在・未来について探究的な学びを進めていきます。

年間 35時間



地域コーディネーターとの相談会

自川びと学

キャリア教育として学年ブロックの学びに合った講師を学校運営協議会学校支援部が繋いでいます。9年間のキャリアステージを見通した学びを進めています。

年間 5～7時間



学校支援部との相談会

未来とくらし

防災 生き抜く知恵と技

災害時の知恵や技をトヨタ白川郷自然学校の専門講師から体験を通して学びます。もしもの時に生き抜くスキルアップ学習として進めていきます。

年間 4～8時間



シェルター体験

未来とくらし

自然との共存

自然と共に生きていく知恵や技を地域の方から体験を通して学びます。生き物を守る、育てる中で、命の大切さについて学びます。

茅刈り 田作り クロサンショウウオ
火山学習など



7

いつまでも住み続けたい村づくりのために 「村に貢献できる“ひと”」を地域と共に育みます

ふるさと学習

- ◆各学年の学びのテーマは「白川村村民憲章」がベース
- ◆各学年に2名ずつの地域コーディネーターを配置
- ◆地域教材「ひと・もの・こと」を直接学ぶ体験学習
- ◆村の過去・現在そして未来について考え挑戦する学習
- ◆関わる地域の大人も子どもと共に白川村の未来について考える学習

自然と一緒に楽しく暮らす

1年生 白川村の自然のなかで たっぷり楽しむ



美しい風土を誇り 自然を守ります

コーディネーター
坂本 磨紀さん(平瀬)
大豆村伸也さん(御母衣)

春には大白川の草木で遊び、夏は川遊び、秋は馬狩で秘密基地を作り、三方岩にも登ります。白川村の魅力を感じながら、季節によっていろいろな楽しみ方があることを学びます。白川村の自然の魅力を、家族や地域の人に語る姿をめざします。

「不変」と「変化」

4年生 合掌造りを未来に繋 不変と変化を考える



豊かな文化をたつとび 伝統を生かします

2年生 自然にかかわる 仕事や活動を体験する



美しい風土を誇り 自然を守ります

コーディネーター
白木 光成さん(飯島)
山田 雅彦さん(鳩谷)

自然に関わる仕事や活動を地域の方と一緒に体験することを通して、自然を大切にするこの意味やよさを考えます。また、白川村の豊かな自然を大切にするために、自分たちが出来ることを仲間、地域の方、家族と考え合う姿をめざします。

5年生 祭りや伝統芸能など 繋ぐための不変と変



豊かな文化をたつとび 伝統を生かします

3年生 自然を生かした豊かな(楽しい) 生活の仕方を考える



きびしい自然に負けず たくましく生きます

コーディネーター
木下則由紀さん(飯島)
新谷 円さん(御母衣)

山々に囲まれた生活や、厳しい冬の生活の中で工夫してきた村民の知恵や技などを学びます。また、現在における自然を生かした豊かな(楽しい)生活の仕方を見つめ、自分たちも自然を生かした楽しく豊かな生活の仕方を考え、挑戦する姿をめざします。

6年生 これまでの学びを見 白川村の魅力を考え、



純朴な心を失わず 感謝の生活をします

白川村全体を「教室」、白川村のひと、もの、こと全てを「先生」としてリアルな探究学習を行い、村で活躍する様々な人の生き方、考え方に触れることを通して、自分の生き方を見つめ、将来、大人になっても白川村を心の拠り所として、グローバルな視野で活躍できる子どもを育てます。

■将来の担い手として…

- ① 村を深く愛する
- ② 村（ひと、もの、こと）を深く理解する
- ③ 村の未来を考える（仲間と、家族と、大人と）
- ④ 村への貢献活動に挑戦する
- ⑤ 村のために活動することで自信をもつ

白川村民憲章

昭和五〇年十一月一日制定
告示第一〇八号

わたくしたちは、霊峰白山のふもと、美しくきびしい自然と、香り高い文化に恵まれた白川村民です

・美しい風土を誇り

自然を守ります

・純粹な心を失わず

感謝の生活をします

・豊かな文化をたつとび

伝統をいかします

・きびしい自然に負けず

たくましく生きます

・たがいに力を合わせ

住みよい村をつくります

を考え未来に繋ぐ

ぐための

コーディネーター
松本 継太さん(御母衣)
和田 真樹さん(荻町)
尾崎 達也さん(荻町)

合掌造りについて、他の地域と比較して調べたり、合掌造りの技術を体験したりします。その中で、白川村の合掌造りを未来に繋ぐためには「何を変えてはいけないのか」「何を変えていかななくてはいけないのか」、伝統を守り続けることの大切さや難しさについて自分たちなりに考え合う姿をめざします。

未来に向かって挑戦する

7年生

村の担い手(大人)の想いや活動を知り、自分の生き方考え方を見つめる

コーディネーター
新谷さゆりさん(御母衣)
滝 麻衣子さん(荻町)



たがいに力を合わせ 住みよい村をつくります

村の担い手さん(大人)と語り合ったり、実際に担い手体験(職場体験)を行ったりすることを通して、担い手さん一人ひとりの願いや思い、苦労などを考えます。そこから、学んだことを活かし、自分たちにできることを考え、学園の担い手として貢献する姿をめざします。

を未来に
化を考えると

コーディネーター
下山 勝巳さん(荻町)
南 昌和さん(鳩谷)

伝統行事や芸能について、他地域と比較、実際に地域の方へ取材し、伝統行事や芸能の体験をします。その中で、伝統行事や芸能を未来に繋ぐためには、どんな「不変」や「変化」が必要なのか、4年生での学びを生かしながら、伝統行事や芸能を未来へ継承することの意味や方法を考え合う姿をめざします。

8年生

これまでの学びや村の現状から、伝えたい村の魅力や現状を発信する

コーディネーター
柴原 孝治さん(平瀬)
前田 法明さん(鳩谷)



たがいに力を合わせ 住みよい村をつくります

地域で生きるその道のプロ、担い手の話や1年生から7年生までの学びで得た情報を基に、「自然」、「人のつながり」、「教育」等、自分たちが考える村の豊かさや改善点について、より効果的な情報発信の方法を考え、白川村の広報係として実践する姿をめざします。

つめ、
発信する

コーディネーター
和田 正人さん(荻町)
川田 晋也さん(荻町)

これまでの学んできた、村の魅力や自然・伝統・芸能の視点から見つめ直し、その魅力を守り続けることの価値について考えます。また、村の「観光大使」として、村を訪れる村外の人たちや、村内の人たちに向けて、自分たちが考える白川村の魅力を自分たちなりに発信する姿をめざします。

9年生

村のよさや課題から村の発展を考え、自分の生き方を見つめる

コーディネーター
山田 俊行さん(鳩谷)
新谷さゆりさん(御母衣)



たがいに力を合わせ 住みよい村をつくります

村のよさ、課題と施策から、未来の白川村の発展について考え、企画・実行できることについて考えます。9年間の学びから、ふるさと白川郷を心の拠り所に、自分はどう生きるかを考え、実践したり仲間や家族と語り合ったりする姿をめざします。

自川びと学

【目的】 広い視野から、自分の生き方や進路を自分で決定することができる態度を育む。そのために、様々な「ひと」に出会い、多様な生き方に触れることを大切にします。



好きなことや得意なことを、仕事や趣味にする生き方に触れる。



よりよい生き方を創り出すためには、どこに住むかということよりも、何を成し遂げたいのかという「目的(志)」をもつことが大切であることに気づき、夢をもち実現することへの思いを高める。

1・2年生

自分の好きなこと、得意なことを見つけることの楽しさを感じる

3・4年生

自分の好きなこと、得意なことを生かして新しいことに挑戦、努力する

5・6年生

夢や希望をもち、自分のあこがれる生き方の実現に向けて、行動を起こし、努力する

7・8・9年生

自分らしさとは何か考え、広い視野から、自己の生き方や進路を選択し、決定する



村のよさを生かして、新しいこと(仕事)に挑戦する生き方に触れる。地域には、自分たちの知らない「地域の魅力を生かした職業」があることを知る。



様々な選択肢の中から、自分の生き方に合ったライフスタイルや職業を選び取る生き方に触れる。

未来とくらし

防災 生き抜く知恵と技

【目的】 予測困難な未来に向けて、災害時を想定した様々な体験を通して“自ら考え行動できる知恵と技”を身に付けます。3年生から8年生まで段階ごとにスキルを高め、生き抜く知恵と技を習得します。



時と場に応じた最適な SOS の出し方を自分で考え、色々な方法で助けを呼ぶ練習をします。

3年生

もしもの時に生き抜くために
SOS の出し方
持ち出し袋に何入れる？

4年生

もしもの時に生き抜くために
泥水は飲めるのか？ろ過してみよう

5年生

もしもの時に生き抜くために
マッチで火を起こそう
ビニール袋で炊飯しよう

6年生

もしもの時に生き抜くために
ナイフの使い方 ファーストエイド

7年生

もしもの時に生き抜くために
テントで一泊
これまでの学びをつなぐ

8年生

もしもの時に生き抜くために
避難所設営ゲーム



新聞紙や小枝から火をおこし、安定した焚火をつくる方法を体験し、火の大切さを学びます。



ロープワークを学び、テント設営やシェルターづくりを行い、実際にテント泊をして実践します。



泥水をろ過する方法や殺菌する方法を体験します。簡単にきれいにならないことを実感します。



小枝から箸を作る体験をします。ケガや低体温症時の対応など自分で考え行動できる手段も学びます。



災害時の避難所を想定して、集団のもつポジティブな力、ネガティブな力を考え合います。

令和6年度 主な行事予定

節目となる行事 児童・生徒会行事 PTA活動

4月

1学期始業式、入学式（1年）
ドキドキがワクワクにかわる会
（1年生を迎える会）
命を守る訓練、知能検査
授業参観・PTA総会・学級懇談会



入学式（1年）

5月

スポーツテスト（1～9年）
PTA資源リサイクル活動
結クラスweek
観光大使任命式（6年）



岐阜小学校案内（6年）

6月

岐阜小学校修学旅行案内（6年）
琴臣先生「和心の授業」、火山学習（7年）
中体連社行会（1～9年）、部活動中体連
修学旅行（6年）、引渡訓練
期末テスト（1～9年）
PTA家庭教育学級講演会



琴臣先生「和心の授業」

7月

住民健診（9年）
授業参観・学級懇談会
ふるさと魅力体験（3・4年）
1学期終業式、三者懇談（9年）



住民健診（9年）

8月

PTA環境整備作業
2学期始業式
実力テスト（7～9年）



中体連社行会

9月

体育大会
結クラスweek
児童生徒会役員選挙（5～9年）
宿泊研修（8年）
ふるさと白川郷ウィーク（平瀬）



体育大会

10月

白川郷ふるさとウィーク（荻町・鳩谷・飯島）
東京研修旅行（9年）
茅刈り（6～9年）
PTA資源リサイクル活動



茅刈り（6～9年生）

11月

火山学習（7年）
地域公開日、未来会議
期末テスト（7～9年）
結クラスweek
文科省指定人権教育公表会



研修旅行（9年生）

12月

薬物乱用防止教室
三者懇談（7～9年）
2学期終業式



地域公開日での未来会議

1月

3学期始業式
書初め展（1～9年）
学年末テスト（9年）
結クラスweek
スキー教室（1～8年）



スキー教室

2月

9年生ありがとうの会
学級懇談会
学年末テスト（7～8年）、三者懇談
標準学力検査（1～6年）



9年生ありがとうの会

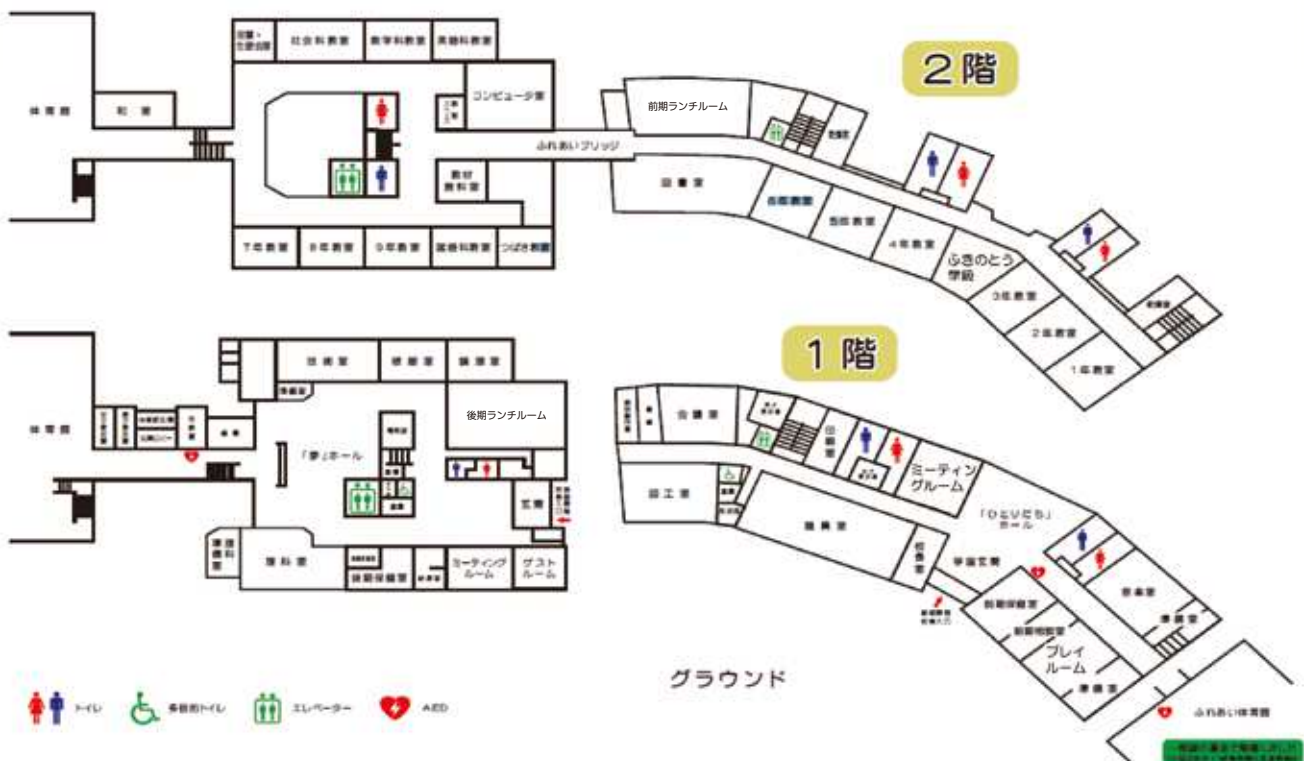
3月

卒業証書授与式（9年）
公立高校入試（9年）
児童・生徒会役員選挙（4～8年）
修了式、離任式



卒業証書授与式

校舎配置図





学園と家庭・地域 ふるさと白川郷に 夢と誇りを 将来の担

担い手=ふるさとへの熱い思いを

私たちは、様々な体験
や学びを通して、将来
の担い手としての心や
力をつけ
ていきま
す。



学園では、家庭・地域
と共に未来につながる
生きる力
を育む学
びを進め
ていきま
す。



学校運営協議会

将来の担い手としていま育みたいこと

◆相手意識を高める ◆自己を鍛え伸ばす!

- ・学校運営の基本方針の承認や必要な支援等に関
- ・各部会の活動内容等の協議
- ・学校評価 など

学校支援部

子どもたちの「やってみたい！」
を後押しします。

◆自己を鍛え伸ばす

- ・村民学マネジメント、支援
- ・地域教材等整理、収集 など



学園職員と学年コーディネーターとの打ち合わせ

地域活動部

「子どもと大人と一緒に
関わる地域」をめざします。

◆相手意識を高める

- ・子どもと大人の関わりづくり
- ・子どもの活躍、挑戦の場づくり など



いつまでも住み続けたい白川村であるために、知恵や技、願いや想い、
未来につなぐアイデアを村民と共に学び進める「ふるさと学習」



村の課題や未来について児童生徒と
村民が共に語り合う「子ども未来会議」



村内外者から様々なことを学び、自分の生き方や考え方などを見つめ、
未来への夢をもつことができる「白川びと学」



村の課題に対する施策案を発信する
「村議会への報告・提言」

の共通の願い

もった 白川っ子を育てたい

い手育て

胸に 白川村に貢献できる“ひと”



する協議



運営協議会委員と学園職員との熟議

地域では、人との関わりの場や体験や挑戦の場、貢献や活躍の場などを増やしていきます。



家庭では、子どもの良さや個性を引き出し、夢をもって何でも挑戦していけるよう支えていきます。



家庭サポート部

「子どもたちの学欲アップ」をめざします。

◆自己を鍛え伸ばす

- ・やる気を引き出す家庭学習アイデア
- ・子どものよさを広げる広報 など



児童との意見交流会



学欲向上に向けた計画シート作成



地域の中でのあたたかい声のかけ合い「登校ふれあい週間」



子どもと大人が共に楽しめる場を増やす「地域行事」等



我が子の興味・関心を引き出し伸ばす「マイロッカー」



地域の一員として子ども達も大人と共に働く機会を増やす「ちよいボラ」



自分たちで考え挑戦する場を増やす「子ども会活動」等



子どもたちの学欲につなげる「フラワーロック」

いつまでも住み続けたい白川村

白川村の担い手育て

次世代に繋ぐ村づくりとは 全ての村民が創り手である

美しい風土 豊かな文化 巧みな知恵や技 人々の想いや願い
現在の担い手が 次世代へと伝え繋いでいく 村づくり

広い視野で見つめ 新しい発想をもち 挑戦することを 恐れず楽しむ
将来の担い手が 未来に向かって挑戦していく 村づくり

伝え繋ぐ場 考え挑戦する場の蓄積こそ 未来を切り拓く 白川村の担い手育てである



未来に向けて 大人と共に挑戦する場の蓄積



広い視野をもち 新しいことを発想する場の蓄積



体験を通し 村の良さなどを
心で感じ得る場の蓄積



地域で支え 学び 挑戦する場の蓄積

